

村野藤吾作品離愁企画

村野藤吾のヒューマニズム建築思想

丸栄百貨店に込められたもの

講演会のご案内

今年6月、名古屋4Mと称される百貨店の一つ、老舗「丸栄」が75年の歴史を閉じました。

設計者は、日本屈指の巨匠、村野藤吾。93歳で亡くなるまで200以上の作品を世に送り出しています。

世界平和記念聖堂（重要文化財）、渡辺翁記念会館（重要文化財）、日本生命日比谷ビル（日本建築学会賞）など正に日本を代表する建築を生み出しました。

そして丸栄は、百貨店建築として唯一、日本建築学会賞作品賞を受賞した建築でした。

今回、丸栄の閉店、解体に際し、村野建築がまた一つなくなる寂しさを記憶と記録に残そうと、離愁企画第3弾として講演会を行います。

講師は京都工芸繊維大学から松隈洋教授にお越しいただきます。

村野建築のすばらしさを堪能下さい。

**講演会は、建築総合展の会場内、2F特設ステージにて、
10月13日（土）15時40分より開催します。**

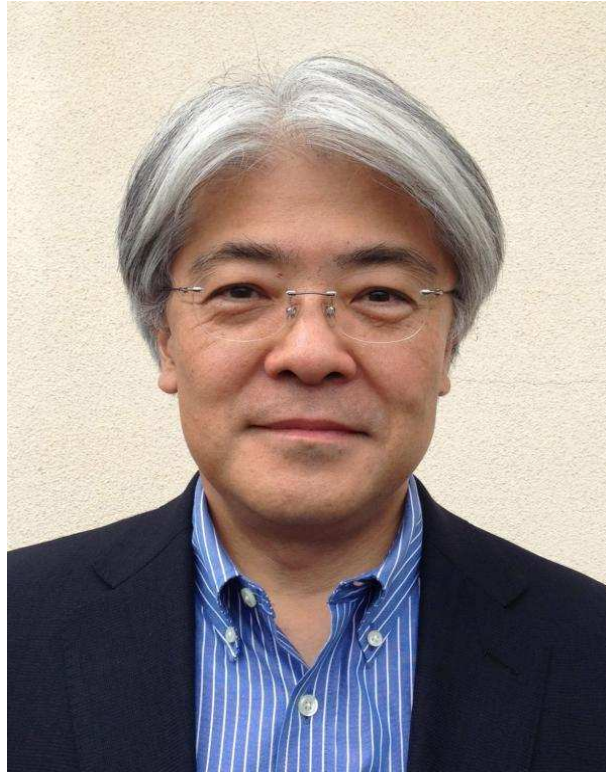
『村野藤吾のヒューマニズム建築思想—丸栄百貨店に込められたもの』講演会

日時 平成30年10月13日 15:40～17:00

参加費 無料 CPD1単位

場所 名古屋市中小企業会館 2F特設ステージ

講師紹介



松隈 洋（まつくま・ひろし）略歴

1957年兵庫県生まれ。1980年京都大学工学部建築学科卒業、前川國男建築設計事務所入所。2000年4月京都工芸繊維大学助教授。2008年10月同教授，現在に至る。工学博士（東京大学）。専門は近代建築史，建築設計論。2013年5月よりDOCOMOMO Japan代表。

主な著書に、『建築の前夜 前川國男論』、『ル・コルビュジェから遠く離れて』、『モダニズム建築紀行』、『ルイス・カーン』、『近代建築を記憶する』、『坂倉準三とはだれか』、『残すべき建築』、『前川國男 現代との対話』（編著），『建築家・前川國男の仕事』（共編著），『建築家大高正人の仕事』（共著）など。「生誕100年・前川國男建築展」（2005年）事務局長，「文化遺産としてのモダニズム建築—DOCOMOMO20選」展（2000年）と「同100選」展（2005年）のキュレーションの他に，A・レーモンド，坂倉準三，C・ペリアン，白井晟一，丹下健三，村野藤吾，谷口吉郎・谷口吉生，吉村順三，大高正人など，多くの建築展の企画にも携わる。文化庁国立近現代建築資料館運営委員。